

# 請願・陳情

平成19年6月26日

総務委員会

付託委員会名	総務委員会						
受理番号 (受理年月日)	提出者	要旨	紹介議員	採否	委員会の 意見	執行機関に 対する措置	
						送付	回答
陳情第7号 (19. 6. 12)	岡山市横井上507-79 とめよう戦争への道 百万人署名運動岡山 県連絡会 代表 野田 隆三郎	憲法9条に関する条文 改憲並びに解釈改憲に 反対するよう求めるこ とについて					

[陳情の内容]

(陳情理由)

戦争放棄を定めた憲法9条は前の戦争に対する痛切な反省のもとに生まれた。憲法9条のおかげで、我々日本人は戦後60年間、戦争に巻き込まれることなく平和な生活を保持することができた。自衛隊は一人の外国兵士、市民を殺傷することもなかったし、また一人の自衛隊員も殺されることはなかった。

しかし今、戦争の足音は急速に高まってきている。米軍再編の名のもと、アメリカ陸軍司令部がキャンプ座間に移設されるなど、日本がアメリカの世界戦略の中枢に組み込まれるとともに、日本がアメリカの戦争の出撃基地に変えられようとしている。さらに日米共同訓練の強化により、自衛隊と米軍の一体化も進められている。

そのような中、憲法9条を改定する動きが急速に高まるとともに、これまでずっと憲法上認められないとされてきた集団的自衛権の行使を容認するための見直しが進められている。これは専守防衛が任務とされてきた自衛隊の性格を根底から変え、自衛隊の米軍と一

体となった海外での戦闘行為に道を開くものであり、日本を再び戦争する国に逆戻りさせる危険性をはらんでいる。

このような日本の将来を決する重大事が国民の意思を無視して進められていることに、私たちは強い危惧を抱かずにはおれない。NHKや新聞各社の世論調査でも、憲法9条を守りたいという意見が常に多数を占めているし、集団的自衛権の行使についても常に反対意見が多数を占めている。

国民の多くは戦争のない平和な日本を次世代に残してやりたいと痛切に願っている。子供たちや孫たちを戦場に送り出し、今米軍がイラクで行っているような殺し合いを絶対にさせたくないと心から願っている。

よって、住民の身近な代表である貴議会在、上記の趣旨の意見書を政府と国会に提出していただくよう要望するものである。

(陳情事項)

憲法9条を改定すること、また、集団的自衛権の行使は認められないとする従来の憲法解釈を変更することに反対する意見書を採択していただきたい。

執行部意見

(総務部総務学事課)

憲法に関する議論については、国において適切に対応されるものと考えている。